

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>①学習理解度到達しんだんにおける正答率 8 割以上の児童の割合を毎年、全学年で昨年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>②本年度本校アンケート調査で「興味や関心をもったことをよりくわしく調べるようになった」について「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する児童の割合を全学年で昨年度より 4 ポイント以上増加させる。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>③本年度本校アンケート調査で「学校の授業はわかりやすく楽しい」について「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する児童・保護者の割合を全学年で 70% 以上にする。 (マネジメント改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>2 年生～6 年生を対象に国語・算数・理科・社会の平成 26 年度学習理解度到達しんだんの結果を分析し、学力の実態を全員が把握した上で指導を実施する。</p> <p>指標 実態分析をもとに各学年の指導の重点を把握し、1 学期は前年度の復習を進める。2 学期以降は当該学年での学習内容の定着を図るために、計画的に学習を進める。</p>	B
<p>取組内容②【区分 自主学習習慣の確立】</p> <p>低学年では、家庭学習材を工夫し自主的な取組みができる工夫をする。中・高学年では、自主学習ノートの設定をする。自主学習のバリエーションが増えるように資料を提示したり、取り組んだ内容に助言したりする。自主学習の進め方を保護者と共通理解する。</p> <p>指標 全学年で毎日、家庭学習教材を提供する。中・高学年では、3 学期のアンケート調査で「自主学習で、興味や関心をもったことをよりくわしく調べるようになった」について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する児童の割合を 64% 以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【区分 理科教育の充実】</p> <p>研究主題・研究内容をもとに取り組み、成果と課題を見出す。複数で、子どもの発言・態度を記録し、単元構成に生かす。</p> <p>指標 相互参観する授業を各学年 2 回以上行う。思考を能動的に働かせている子どもの姿が、授業記録の中で多く見られる。</p>	B
<p>取組内容④【区分 国語・算数・理科】</p> <p>全員が研究授業を行い、わかりやすい授業について指導力を向上していく。</p> <p>指標 全員が研究授業を行い、本年度本校アンケート調査で「学校の授業はわかりやすく楽しい」について「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答する児童・保護者の割合を全学年で 70% 以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容】について

- ① 昨年度のしんだんの結果の分析が行われ、全力チャレンジの取組内容へ生かされた。1 学期の取り組みの成果として、前年度の学年の学習内容の定着が見られた。2 学期以降も朝のチャレンジタイム・全力チャレンジの時間を利用し、正答率アップに向けて取り組みを進める。
- ② (1 年) 学校で学習したことを家の人に聞いてみて、復習する。
(2 年) 漢字のテスト勉強として、自分の苦手な字を多く練習するなど工夫させる。
(3 年) 自主学習ノートをつくり、取り組む。
(4 年) 「水」について学習の期間を設定し、意欲的に取り組んできた。
(5 年) 自主学習ノートをつくり、レポートをつくる。
(6 年) 自主学習ノートをつくり、毎週末に自主学習を設定している。
(理科自由研究) 200 人の子どもが自分の興味・関心に基づいて取り組んだ。
- ③ 計画的に実施している。相互参観を積極的に行い、子どもの発言・態度を記録し、単元構成に生かしている。研究授業だけでなく、普段の授業から理科学習の研究に意欲的に取り組むなど、理科学習の向上に向けて学校全体の機運が高まってきている。
- ④ 計画的に実施している。各教員が相互参観し、わかりやすい授業づくりについて自主的に話し合う姿が増えてきた。

今後への改善点

- ① 取り組みは計画通り進めているが、個人差が大きく定着できていない部分もある。一人一人が自分の特徴を知る。自分の特徴を個別に強化できるように、学習形態を工夫する。
- ② 宿題をこなすといった感じで、自主的に学習を進めている子どもは少ないように思う。自主学習の掲示や発表の場を設定するなどして、宿題や自主学習を振り返って成果や達成感を感じられる工夫を行い、やる気をもたせる。
- ③ 各単元で、思考を能動的に働かせている子どもの姿（記述、行動など）の記録を複数でより分析する必要がある。
- ④ 教員基本セミナーの実施など、各教員のさらなる指導力向上を図る。